

第4回 あま市小中学校あり方検討委員会 会議録（大要）

開催日時	令和5年3月22日（水）午前10時00分～午後12時00分
開催場所	美和公民館 1階 実習室
出席委員	<p>1 委員長 山田 貞二（岐阜聖徳学園大学准教授）</p> <p>2 副委員長 小林 優太（愛知教育大学非常勤講師）</p> <p>3 委員 溝口 紘（有識者）</p> <p>4 委員 安江 利成（あま市立甚目寺南中学校校長）</p> <p>5 委員 溝口 由紀江（あま市保育園保育士長）</p> <p>6 委員 林 弘樹（宝学園（中川幼稚園）理事長）</p> <p>7 委員 古川 式規（財政課長）</p> <p>8 委員 早川 敬成（企画政策課長）</p> <p>9 委員 恒川 和宏（子育て支援課長）</p>
欠席委員	<p>欠席 委員 加藤 万佐子（あま市立宝小学校校長）</p> <p>欠席 委員 佐藤 明美（保護者）</p>
事務局	<p>1 松永教育長</p> <p>2 鎌倉教育部長</p> <p>3 日比野教育次長</p> <p>4 徳永学校教育課長</p> <p>5 内山生涯学習課長</p> <p>6 大堀スポーツ課長</p> <p>7 寺澤学校給食センター課長</p> <p>8 水野指導主事主幹</p> <p>9 林学校教育課主幹</p> <p>10 書記野々目課長補佐</p>
傍聴人	0人
議事日程	<p>(1) 今回ご意見を頂く課題の紹介（再）</p> <p>(2) 前回までのご意見まとめについて</p> <p>(3) これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方について</p> <p> 1 学校と家庭と地域のあり方</p> <p> 2 学校間交流のあり方</p> <p> 3 特別支援教育における学校のあり方</p> <p> 目指す姿、期待すること、懸念すること、課題</p> <p>(4) ICT利活用における学校のあり方</p> <p> 目指す姿、期待すること、懸念すること、課題</p> <p>(5) 教職員の働く場としての学校について</p> <p> 1 教職員の働き方改革</p> <p> 2 部活動のアウトソーシング</p> <p> 目指す姿、期待すること、懸念すること、課題</p> <p>その他</p>

発言者	議事の概要												
山田委員長	<p style="text-align: right;">【開会時刻 午前9時30分】</p> <p>定刻となりました。 本日はお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。それでは、ただいまより第4回あま市小中学校あり方検討委員会を始めさせていただきます。</p>												
山田委員長	(挨拶)												
山田委員長	最初に本日の資料の確認を事務局にお願いします。												
学校教育課長 (又は書記)	<p>本日の資料の確認をお願いします。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 次第</td> <td style="width: 30%;">A 4</td> <td style="width: 20%;">1 枚</td> </tr> <tr> <td>2 小中学校のあり方に関するご意見</td> <td>A 4</td> <td>6 枚</td> </tr> <tr> <td>3 ご意見聴取用資料</td> <td>A 4</td> <td>6 枚</td> </tr> <tr> <td>5 第5回委員会の日程調整のお願い</td> <td>A 4</td> <td>3 枚</td> </tr> </table> <p>以上です。</p>	1 次第	A 4	1 枚	2 小中学校のあり方に関するご意見	A 4	6 枚	3 ご意見聴取用資料	A 4	6 枚	5 第5回委員会の日程調整のお願い	A 4	3 枚
1 次第	A 4	1 枚											
2 小中学校のあり方に関するご意見	A 4	6 枚											
3 ご意見聴取用資料	A 4	6 枚											
5 第5回委員会の日程調整のお願い	A 4	3 枚											
山田委員長	それでは、市教育委員会を代表しまして、教育長よりご挨拶をお願いします。												
教育長	(挨拶)												
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録の概要を市ホームページで公開するため、事務局が委員会の内容を録音させていただきますので、ご承知おきください。</p>												
山田委員長	それでは、「議題（1）今回ご意見を頂く課題の紹介（再）」に入ります。事務局説明をお願いします。												
学校教育課長	<p>前々回の第2回委員会で、ご意見を頂くテーマの統合について検討いただきました。その結果、今回は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方について ②ICT利活用における学校のあり方について ③教職員の働く場としての学校について <p>以上の3つのテーマについてご意見を頂くこととなります。3つのテーマについては、今回まででいただくご意見で報告書を作成する予定となります。</p> <p>今回ご意見を頂くに際して、第1回にご説明してから時期が開いておりますので、担当の方から再度それぞれのテーマについてご説明をいたします。</p> <p>なお、再度の説明ですので本日事務局から資料はご用意しておりませんが、資料をご持参いただいた委員の方々については、そちらをご覧ください。</p>												
書記	<p>ご説明します。</p> <p>本日、資料をご持参いただいた委員の方がたについては、小中学校のあり方④これからの学校、学校と学校、学校と地域のあり方についてのA3四枚の資料をご覧ください。</p> <p>資料1ページをご覧ください。</p> <p>一点目として、学校と家庭と地域のあり方についてです。</p> <p>学校現場の課題の多様化、複雑化が一層進み、学校に期待される役割</p>												

が相対的に増大してきていることについては、既にお話ししました。

これまでの体制による対応では立ちゆかないという現状があるなか、地域と学校が連携・協働して地域全体で子供たちの成長を支えるいわゆる「チーム学校」という形をすすめるため、開かれた学校づくりが進められています。

資料2ページから3ページをご覧ください。

現在、あま市の小中学校全17校において、学校運営協議会を設置しています。学校運営協議会は、学校の運営及びその学校の支援のため、学区に住む地域の住民や、保護者が学校と一緒に協力をするための仕組みです。

資料4ページから5ページをご覧ください。

生涯学習課において、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域学校協働本部が既に設置されています。

これらの取組を一層推し進め、地域全体で子供たちの教育を担う仕組みづくりをいかにして実効性のあるものにしていくかが今後の課題です。

資料5ページから6ページをご覧ください。

特色ある学校づくりについてお話しします。

市内一斉横並びの学校作りではなく、小規模校では小規模校の、大規模校では大規模校の、また、それぞれの学校の地域や特性に合わせた特色ある学校づくりを進めるため、特色ある学校づくり推進事業を実施しています。本取組を一層推し進め、財政負担も考慮しつつ、より実効性のあるものにしていくには、どのようにしていけばよいかということが今後の課題です。

資料6ページをご覧ください。

令和2年12月に学校間交流について、甚目寺東小学校及び正則小学校区で検討委員会を開催しました。

学校間交流については、あま市全体の方向性を示したうえで、希望がある場合には、関係する学校等での学校間交流の規模や方法等の具体的な計画を話し合うことが相応しく、地域づくりや生涯学習活動と連携しながら時間をかけて旧三町の垣根を取り払うような交流活動につなげていけるよう推進することが良いのではないかと報告を受けました。

資料7ページから14ページをご覧ください。

二点目として、特別支援教育についてです。

特別支援教育及び不登校児童生徒等並びに医療的ケア児について、現在小中学校において実施されている取組についてご確認いただけたと思います。

幼保小の連携協議会や就学相談など、就学前の仕組みについては、現在さまざまな取組を行っています。また、教育相談センターや通級指導教室など在学中の取組についても行っています。

しかしながら、当該障害児、者の目線で見たとときの、出生から生活自立までを考えたとき、中学校卒業後の高校や就労の定着支援、不登校児

	<p>童生徒の卒業後のニート、引きこもり化を防ぐ取組について、生活困窮者自立支援窓口や、子ども若者支援窓口などの取組があるものの、スムーズな支援移行が出来ているかという点と難しい部分です。</p> <p>出生から生活自立までを計画的かつ継続的に支援実施施策をリレーして情報と支援を行う仕組みができれば、より早期から支援を実施し、より効果的な支援が可能となるのではないかと考えます。</p> <p>資料14ページ、15ページをご覧ください。</p> <p>特別支援教育、不登校対策、いじめ対策を考えたとき、スクールソーシャルワーカーやスクールロイヤーを配置出来ていれば、より効果的な支援が行うことができます。</p>
書記	<p>続いて、本日ご意見を頂く2つ目のテーマについてご説明します。</p> <p>本日、資料をご持参いただいた委員の方がたについては、小中学校のあり方⑤ICT利活用についてのA3一枚の資料をご覧ください。</p> <p>資料1ページをご覧ください。</p> <p>現在、各小中学校で設置済みのICT機器等の構成模式図をご確認いただけることと思います。</p> <p>資料2ページをご覧ください。</p> <p>先ほどの模式図を列挙したものです。</p> <p>GIGAスクール構想に基づく一人一台タブレット端末が配備されたいま、それらタブレット端末を使って授業を行うにあたり、いかにして利活用していくのか。</p> <p>現在、あま市はまずは普段の授業の中でのタブレット端末の活用について教職員の習熟及び研究を勧めようという方針の下、インターネット経由でのオンライン授業や、タブレット端末の持ち帰りについては他市の後塵を拝している状況です。</p> <p>また、教職員の働き方改革に伴うICT機器を利活用した事務の省力化などの学校DXについても進んでいるとはいいいがたい状況があります。</p> <p>今後、校内のICT機器構成のグランドデザインをどのようにするのか、タブレット端末を児童生徒に持ち帰らせてどのような教育活動を行うのか、学校のDX化をどのように推進するかが課題です。</p>
書記	<p>最後に、本日ご意見を頂く3つ目のテーマについてご説明します。</p> <p>本日、資料をご持参いただいた委員の方がたについては、小中学校のあり方⑥働く場としての学校のA3二枚の資料をご覧ください。</p> <p>資料1ページから7ページをご覧ください。</p> <p>平成29年12月の「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」という中教審まとめ及び平成29年12月「学校における働き方改革に関する緊急対策」をうけ、学校のみによる教育ではなく、地域や保護者と協働する持続可能な教育が求められています。</p> <p>そのなか、基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務、教師の業務だが、負担軽減が可能な業務が示されました。</p> <p>単に就業時間の過多を計測するのみではなく、その仕事の手順や方法</p>

	<p>を地域との協働や、ICT機器等の利活用により変革していく試みが求められています。</p> <p>資料8ページをご覧ください。</p> <p>愛知県教育委員会では、部活動参加生徒に適切な技術指導を受けさせるとともに、教員への支援、教員の負担軽減を図るため、平成30年度から公立中学校へも部活動指導員を紹介する事業を始めています。</p> <p>また、部活動指導ガイドラインが設けられ、平日に1日と土日のいずれか1日以上以上の休養日を設けることとされました。</p> <p>部活動について、地域のクラブチームへの移行は可能なのか、移行することについての是非、受け皿となるクラブチームをどのように育成していくのか等課題は多く残っています。</p> <p>以上です。</p>
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p>
山田委員長	<p>それでは、「議題（2）前回までのご意見まとめ」に入ります。事務局説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>まず、委員の皆さまにおかれましては、第1回から第3回までご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>第1回から第3回まで及びアンケートによっていただいたご意見の概要を担当からご紹介いたします。</p>
書記	<p>ご説明します。</p> <p>第1回・第2回にいただいたご意見については、第3回でご紹介させていただいていますので、お手元の資料でご確認をお願いします。</p> <p>第3回にいただいた意見は、</p> <p>①小規模校と大規模校、②小中一貫校につきましては、概ね賛成の意見をいただきました。</p> <p>期待することといたしましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の成長を長期的な目で見守ることができる。 2 あま市の魅力につながる。 3 教科の連携が深まりやすくなる。 4 維持管理経費や運営費の縮減が期待できる。 5 小中一貫から義務教育学校の方向へ進みことで特色ある学校づくりができる。 <p>懸念することといたしましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 初期設備投資がどれだけできるか。 2 地域の方々がどう思っているかを配慮する必要がある。 3 人間関係のリセットのチャンスがなくなるのではないか。 4 通学距離が長くなる。 <p>課題といたしましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の方々の意見を十分に聞く必要がある。 2 子ども達にとって変化がデメリットになってはいけない。 3 公共施設は老朽化が進んでおり、大規模な改修を要する時期に来ている。 4 資金投入において市民の理解が得られるような説明が必要。

	<p>その他といたしましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小規模校と大規模校にはそれぞれに一長一短がある。 2 七宝北中学校のように小学校でも通学の選択制度を導入してはどうか <p>との意見をいただきました。</p> <p>続きまして、③施設等の共有化・複合化につきましても、概ね賛成の意見をいただきました。</p> <p>期待することといたしましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 管理コストの削減。 2 民間プールを活用することで、専門のインストラクターによる指導が受けられる。 3 施設の増改築を行う際には子ども達の記憶や心に残るデザインにしてもらいたい。 4 施設の複合化により、地域の方々の関心が高まることも期待できると感じている。 5 学校が地域活動の場となり、学校区単位でのコミュニティの活性化が期待できる。 <p>懸念することといたしましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設の共有化等で児童生徒の負担となることが出てくる。丁寧な検討したうえで体制の整備が必要。 2 学校施設を目的外で使用する場合は、節度ある利用が必要。 3 共有化により長距離の移動が必要になる。 4 施設利用に際し複数校で調整することは困難。 <p>課題といたしましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者のマナー。 2 児童生徒・教職員の理解が必要。 3 防犯セキュリティの問題。 <p>以上のご意見を頂きました。ありがとうございます。 以上で説明を終わります。</p>
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	<p>それでは、「議題（3）これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方の目指す姿、期待すること、懸念すること、課題」に入ります。</p> <p>前回までの委員会でも意見を頂いています。</p> <p>本テーマについては、今回までいただいたご意見で報告書が作成されますので、よろしくお願いします。</p> <p>なお、いただくご意見について、事前に配布してある資料の順番で、目指す姿、期待すること、懸念すること、課題、その他の順にお願いします。</p>
山田委員長	①「学校と家庭と地域のあり方」についてお願いします。
学校教育課長	<p>概要について、ご説明します。</p> <p>（開かれた学校づくり）</p> <p>学校、家庭及び地域のあり方。コミュニティスクール。学校運営協議会</p>

	の在り方。家庭及び地域と協働で運営する開かれた学校づくり。交流、連携、協働。あま市として一体となることのできる学校。旧町の垣根を越える懸け橋となる学校。
山田委員長	目指す姿についてご意見をお願いします。
山田委員長	○“繋ぐ”がポイントである。学校と地域をつなぐところが、あまりうまく機能していないのではないか。繋いでいく役割となる地域コーディネーターが各学校に一人割り当てられると大きく変化する。
山田委員長	○学校内外の人的資源をイベントだけでなく授業の中でも活用していければ良い。地域もPTAも保護者も人的資源として積極的に活用していけたら良い。
山田委員長	○地域コーディネーターが大きく活躍できる学校運営協議会づくりが重要。
山田委員長	○学校での活動や授業をオンラインで保護者だけでなく地域へも視聴可能とし、より開かれた学校を作る。
山田委員長	○学校運営協議会の活動を広報する仕組みが必要である。ウェブサイト、ブログ等ICTを活用した広報手段により、地域や保護者に活動内容を知ってもらう必要がある。
小林副委員長	○あま市として一体となる学校づくり、地域全体でのチーム学校という姿の実現を目指していくとよい。
小林副委員長	○学校の中で教えなければならないコンテンツが多様化しているなか、専門性の高い地域の人材による出前授業の活用は有益であると考え。例えば、NPO法人ママプラスによるキッズ防犯の取り組みがあたる。他にも、キャリア教育や、金融教育や、プログラミングなど、地域の人材を活用できることがあるのではないかと思う。
溝口委員	○地域の住民と学校が“顔の見える関係作り”ができると良い。
安江委員	○学校と地域が連携して生徒の学習に携わることは、効果の高い学習機会であり、どんどん実施した方がよいと考えている。
古川委員	○子どもたちが安全に遊ぶことができる環境づくり。
古川委員	○地域住民との交流の促進。
古川委員	○学校施設の解放の拡大。
早川委員	○学校、家庭、地域が連携するためのコミュニケーションを促進させる仕組み構築。
恒川委員	○放課後子供教室ではボランティア、地域の方、保護者の協力を得ている。
恒川委員	○学校、家庭、地域と話し合うに際し、どうやったら子どものためになるのかという基本的な姿勢を持ち続けることが重要である。
溝口(保育士長)委員	○保育園の地域の方々との関として園庭開放や介護施設の訪問、人権教室や手作りおもちゃ教室、小学生との交流を行っている。
山田委員長	期待することについてご意見をお願いします。
山田委員長	○学校運営協議会で地域コーディネーターが活躍し、できればPTA活動を経験した方が担うと良いのではないかと考える。PTA活動の経験を通じた家庭どうしの繋がりを期待したい。
小林副委員長	○市民活動を行っている団体等には、学校でそれら活動に関わる内容等

	を子供たちに伝えたい、教えたいというニーズはあると思われる。
溝口委員	○地域の住民のなかには、学校の子どもたちのためであれば努力を惜しまないという方は多くいると思う。
安江委員	○中学校では生徒が地域に出て行って、職場体験学習を行っている。職場体験学習や職業講話の前と後では子どもたちの心構えや態度に成長がみられる。社会と触れ合うことで人としてどうあるべきかということを生徒は肌で学んでいると思う。学校全体が落ち着いてきて、学習効果に表れてきていると感じている。
古川委員	○家族の絆を強めることを期待したい。
古川委員	○安心して子どもたちを育てられる環境づくり。
古川委員	○地域との関係を強化し、地域に開かれた学校への転換。
早川委員	○学校、家庭、地域が問題を共有すること。
恒川委員	○地域が学校を支援することがもっと増えていいと思う。
溝口(保育士長)委員	○保育園でも地域と関わる交流を行っており、交流を通じて園児の自己肯定感の育みを促進している。
溝口(保育士長)委員	○園児は、体験を伴う活動により社会性が広がる。
山田委員長	懸念することについてご意見をお願いします。
山田委員長	○セキュリティの問題
小林副委員長	○教えるべきカリキュラム、年間のプログラムが決まっているなかで、学校と講師でどのように調整していくのかが、課題。
安江委員	○学校はかなりの過密スケジュールであり、外部から見ると総合の時間など挿入することが可能なのではないかと見えがちであるが、実際は細かくカリキュラムを割り当てており、生徒は思われているより忙しい。早めに翌年度の計画段階から打ち合わせを重ねて実施できるとよい。
早川委員	○学校任せとならないか心配する。
恒川委員	○子供中心であるべきだが、大人の力や想いが大きくなりすぎて、大人中心となることが心配される。
恒川委員	○子供教室においては、学校での人間関係が放課後子供教室でも継続するため、配慮を必要とし、情報交換をするための仕組みがあると良い。
山田委員長	課題についてご意見をお願いします。
山田委員長	○学校運営協議会がさらなる活躍ができるよう教育委員会からのバックアップを行うことができる仕組みづくり。
山田委員長	○地域の中で、学校に関わっても良い、関わりたいと考えている方を探して学校とつなげることができれば、活動も広がりを見せる。
山田委員長	○学校や学校運営協議会が行っている内容を地域や保護者に広報する仕組み。
小林副委員長	○出前授業の講師と学校との調整は大変なので、間を取り持つような仕組みがあると良いのではないかと。
溝口委員	○地域と学校が“顔の見える関係作り”ができる仕組みがあると良い。学校運営協議会がさらに活用され、本音で話し合える会となってほしい。
溝口委員	○地域の住民からすると、まだまだ学校は敷居が高いと感じている方が

	多い。
林委員	○私立の幼稚園と公立の学校では、勝手が違ってはくるものの、園で行っていることを家庭にどうやって伝えていくのかは大きな課題である。現在行っている内容としては、保護者への園庭開放や活動内容のブログの更新があるが、ブログにおける園児の写真のプライバシーについては、かなりの配慮を必要とする。
古川委員	○家族構成や、保護者の働き方、家族の在り方の変化に伴い、子育ての負担が増しているなか、家族の絆をどうやって強めていくのか。
古川委員	○学校が連携する相手方としての地域コミュニティの強化。
山田委員長	その他についてご意見をお願いします。
小林副委員長	○地域の人材による授業や講師等を活用することにより、学校の負担は減るものなのか増えるものなのか。
安江委員	○年間カリキュラムのなかで事前から調整し、計画的に実施することにより、学校の負担はあまり増えないのではないかと予想する。
小林副委員長	○地域と学校の協働にあたり、ボランティアを基本として考えるものか、場合と内容によっては予算は付き得るのか。
古川委員	○第二次総合計画では、モットーとして市民協働がある。教育のカテゴリであっても、協働でまちづくりをしていこう、より良くしていこうという活動については、補助金なり別な形なりでの予算措置はあり得ると考える。
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	続きまして、②「学校間交流のあり方」についてお願いします。
学校教育課長	概要について、ご説明します。 (学校間交流) 学校間交流のあり方。行事、授業、イベント等の共同開催。あま市として一体となる事ができる学校間交流。小1プロブレム、中1ギャップの問題。幼保小高社会の交流のあり方。
山田委員長	目指す姿についてご意見をお願いします。
山田委員長	○教科担任制の導入により、さらに教職員不足が起きることは避けることができない。そのようななか、教職員間での学校間交流は行う必要がある。
山田委員長	○幼稚園、保育園でこれだけできたのに、小学校にあがったら途端にできなくなってしまうことが往々にしてある。幼稚園で行っていたこと、保育園で行っていたことの情報に小学校に繋がっていくことが必要である。
山田委員長	○幼稚園、保育園から小学校、中学校へ連続して継続した記録をとる仕組みが必要である。ニュージーランドの事例では、幼稚園では専門の職員を充てて園児の記録を取っている。それは、ネガティブな情報ばかりなのではなく、こんなことが出来た、出来るといった保護者にも見せることが出来るような情報で、写真を伴ったものである。これらの情報は、そのまま小学校へ中学校へ持ち上がって行って、一貫した教育を行うための資料となる。ICT機器を用いて、このような仕組みがこれからは必要となるかと思う。
小林副委員長	○理由、目的をはっきりとさせる必要があり、中1ギャップ、小1プロ

	ブレムの解消のために学校どうしが共同して行うことは良いと考える。
小林副委員長	○あま市全体で学校交流ができると良いと考える。
溝口委員	○幼保と小学校、小学校と中学校との交流をまず先に考えた方がよい。それが熟してから学校間の交流を図るのでよいと考える。
安江委員	○児童生徒の交流も重要であるが、小学校、中学校の職員同士の交流及び情報共有や連携も必要である。
古川委員	○交流の活動は、単発ではなく、継続性や回数をこなすことが必要であると考える。
恒川委員	○コロナ禍を経て、リモートによる交流も一層増えていくのではないかと。選択肢が増えることにより、市内だけでなく市外、海外へも交流が可能となるのではないかと。
溝口(保育士長)委員	○幼保小連絡協議会によって、保育園と就学予定の小学校の職員が情報共有を行うことができるのは、職員にとっても安心できるし、児童生徒の円滑な入学に寄与していると考えている。
教育長	○コロナにより、学校間交流のあり方は大きく変わった。タブレットの全員配布により、自校に居ながら他の場所との交流が可能となった。
教育長	○市内小学校では、郷土の戦国武将を題材に生誕の地である市内小学校と終焉の地である他県の小学校と交流をICTを用いて行った事例がある。
教育長	○特別支援教育においてICTを用いて交流を行った事例がある。
教育長	○ICTも用いて交流のあり方は大きく変わって、今まで行っていた交流についても学校の負担は軽減された。
教育長	○教育委員会のサポートを得て複数校がICTを用いて共同で行った事例もある。
山田委員長	期待することについてご意見をお願いします。
山田委員長	○幼稚園、保育園と小学校の職員がお互いに行っている内容について共有することは、それぞれの学齢における主体的で対話的な深い学びに寄与すると考える。合同研修を行うなどすることも良いと考える。
小林副委員長	○あま発未来創造塾において、地元の大学生と話す機会があるが、それぞれの旧町のことはよくわかっているが、あま市内の旧他町のことはあまり良く分かっていないことが多い。小中学生のころから市内において距離のある学校との交流を通じて市内の他地区のことを知る機会があると良い。市全体の魅力を皆が共有できることは、地域に愛着を持つきっかけになるのではないかと考える。
小林副委員長	○学校の行事としてだけでなく、幼保、小中、高大、社会と長いスパンの対象者を想定した地域の行事と考えることも良いのではないかと。
林委員	○中高生が、園児と触れ合う職場体験学習は、中高生にとっても道徳教育、社会体験としても良いことだと考えている。また、園としても人手不足の幼児教育業界に興味を持ってもらうきっかけにもなると考えている。
林委員	○中高生のうちに幼児、子どもに触れることで、子どもが可愛いと思う心を醸成し、将来子どもを持とうとおもう気持ちを増させるわずかな一助になるのではと思っている。

古川委員	○何かこれをすれば小1プロブレムや中1ギャップが解消できるという ようなものは、おそらくないと思うが、少なくとも学校間交流によっ て、新たな友達や交友関係を子供たちが気づくことができるきっかけ になるのではないか。
古川委員	○普段会うことのない同年代の子どもたちの交流により、児童生徒が社 会性を育む機会になるのではないかと期待する。
古川委員	○学校間の職員同士の交流は、教育の質の向上が見込めるのではないかと 期待する。
早川委員	○あま市域はけっして広くはないものの、その限られた市域の中でも旧 町の区分けに限らず、それぞれの住民の文化は異なっている。それら の同じ市内に住み、近くにいるにもかかわらず異なる文化について知 るいい機会となるのではないか。
早川委員	○市長と語ろうあまの未来においても、児童生徒や学校は事前準備をし、 児童生徒は目を輝かせて市長に積極的に質問をする様子が見受けられ る。同世代の児童生徒間で交流が図られれば、さらに互いに刺激し合 い、理解を深め合い、互いの価値観、文化について分かり合えるので はないかと期待する。
恒川委員	○新しい交流により、新しい学びの手段が増え、児童生徒の選択肢が増 える。
恒川委員	○保育園の年長さんは、みな小学校にあがることを楽しみにしている。 ぜひ、小1プロブレムといったことが極力起きないように、情報交換 や交流を進めていただきたい。
溝口(保育士長) 委員	○コロナ禍以前は、保育園児が入学する予定の小学校に行き、当該校の 小学生と交流し、園児は実際に教室に入って椅子に座ったりと、様々 な体験をする機会があった。実際に小学校にいった体験することがで きることは、園児にとってとても貴重な体験であり、安心できる材料 となっていた。今後再び復活できるとよいと思う。
溝口(保育士長) 委員	○中学生による保育園への職場体験は復活することができ、園児にとっ ても良い刺激となった。
山田委員長	懸念することについてご意見をお願いします。
溝口委員	○大変いいことだとは思いますが、それにより学校の負担が増すことがあ ってはいけないと考える。
恒川委員	○大変いいことだとは思いますが、それにより学校の負担が増すことがあ ってはいけないと考える。
安江委員	○小1プロブレム、中1ギャップを極力解消しようと考えたと、複数回 の交流が必要になってくるかと思われるが、小学校中学校共にスケジ ュールやカリキュラム的に複数回の交流をする時間を確保することは 困難であると思われる。
古川委員	○継続的な交流活動により、学校の負担が増大することを心配する。
早川委員	○財政的な負担と学校間の連絡調整による学校の負担、ICTを活用す るにしても専門的スキルを要することなどの懸念がある。
山田委員長	課題についてご意見をお願いします。
山田委員長	○幼稚園、保育園段階から小学校、中学校までの園児、児童生徒の記録 を連携、継続する仕組みが弱い又は無いのではないか。

小林副委員長	○何のためにやるのかと、学校の負担のバランスをよく考えて行うことが必要。
古川委員	○事業実施にあたり費用がかかってくるが、限られた予算の中で当該事業にどれだけの予算を割り当てることとするのか、予算規模に合わせて事業を縮小するものか。
恒川委員	○交流を進める相手をどのように探すか、どのようなテーマを設定するのか。具体的なイメージと手段を事前にしっかりと企画しなければならない。
山田委員長	その他についてご意見をお願いします。
林委員	○幼稚園としては、あまり幼稚園同士の交流を行ってはいない。
林委員	○幼稚園に小学校の先生が新一年生の情報を聞きに来たり、電話等で照会されることはあり、その都度お答えしている。
林委員	○幼稚園に中学生や高校生が職場体験学習として来ることはあるが、園児たちも喜ぶので積極的に受け入れている。
恒川委員	○保育園への職場体験は、受け入れているし、今後もその予定である。
恒川委員	○甚西小の標語の掲示も学校からの依頼で保育園において行っている。
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	議題3の最後となります、③「特別支援教育における学校のあり方」についてお願いします。
学校教育課長	概要について、ご説明します。 (特別支援教育・不応・不登校・引きこもり支援) 出生前～乳幼児～幼保～小～中一貫した体系的な支援と情報の共有。インクルーシブ教育システム。スクールソーシャルワーカーの活用。社会福祉課障害福祉係、子育て支援課、保健センター、教育支援員会、適応指導教室、療養棟連絡会議、学校間連携協議会、幼保小連絡協議会、子ども・若者支援窓口、生活困窮者自立支援窓口、社会福協議会との連携。不登校のICT利活用。
山田委員長	目指す姿についてご意見をお願いします。
山田委員長	○現場の教職員の方々が一番苦慮しているのは、通常級にいる発達障害の児童生徒であろうと推察する。ここが引き金となって、学級崩壊につながることもある。対応のあり方を教職員が間違えると良くない結果を引き起こすことがある。
山田委員長	○適応指導教室が、市内にもある。また、学校内にも適応指導教室に準じるような教室がある学校もある。普通教室、校内の適応指導教室、市の適応指導教室を自由に行き来できるようになると良い。
山田委員長	○校区で1つ適応指導教室ができて、専属の教職員が配置されると良い。
小林副委員長	○インクルーシブ教育システムが推進されていくことが重要である。
小林副委員長	○現在行っている取組は、推進して行っていただきたい。
小林副委員長	○違いに関する認識の違いなど、価値観の多様性が重要であるため、仕組みだけでなく、児童生徒の理解を促進するような教育の内容が大切である。
古川委員	○児童生徒の特性に応じた教育が必要である。
古川委員	○保育園や小学校に医療的ケア児のための予算措置をしている。
古川委員	○あま市の小中学校はスクールサポーターに他市と比べてあつく予算が

	っている。
古川委員	○障害等を持つ児童生徒への合理的配慮のための予算は必要である。
早川委員	○児童生徒一人一人に合わせた教育プログラムの提供が必要となる。
早川委員	○偏見や差別を撤廃するためには、広く皆に知って頂くということが大切であるため、市の広報広聴の手段を用いて市民に知って頂くこともできる。
恒川委員	○保育園に関しては、入園又は在園に際し、療育の会議を開いて保護者の意見も聞きながら対応を検討している。
恒川委員	○個人として野球の地域スポーツ活動を行っているが、引きこもって学校に行けていない子が在籍している。ある時は来れたり、しばらく来れなかったりするが、外に出るきっかけにしてくれている。
溝口(保育士長)委員	○小さなきっかけから学校に行けなくなるケースもある。子どものSOSを早期に気づいて、どのような支援が必要か検討し、その原因に対処できるようにする。
溝口(保育士長)委員	○学校に行きにくい子供たちの居場所となるフリースクールのような場所があると良いと思う。そして、それが少しでも外に出るきっかけとなればと考える。
山田委員長	期待することについてご意見をお願いします。
山田委員長	○校内の適応指導教室の開設は、空き教室活用にもなる。
溝口委員	○教育相談センターが大きな役割を果たしていると承知しているが、相談員、支援員の数を増やして欲しい。
溝口委員	○教育相談センターの相談員、支援員の方は、あま市の小中学校の学校現場を経験した方になって頂けると、地域特性もわかって実施していただけるのではと思う。
教育長	臨床心理士を除く支援員等は現在はあま市教職員を経験した方をお願いしている。
安江委員	○教育相談センターから支援員が巡回して、特別支援学級の担任や学校の教職員に適切なアドバイスや支援を行っていただいていることは、有り難い。
恒川委員	○ICTを活用して活用していければ良いと思う。
溝口(保育士長)委員	○保育園としても、療育を必要とする園児の情報を小学校としっかりと共有連携していく取り組みを継続したい。早期に対処して、不登校につながらないようにできたらよいと感じている。
山田委員長	懸念することについてご意見をお願いします。
安江委員	○教職員に知識が十分にあるのが課題である。しっかりと勉強しなければならない。なんでもかんでも一緒にすればよいわけではなく、正しくインクルーシブ教育を行わなければ、子どもたちにとっても良い結果をもたらさない。
恒川委員	○保育園に関しては、保育園や子育て支援課のみで対応できる範囲には限界があるため、様々な機関と連携して対応に当たる必要がある。
山田委員長	課題についてご意見をお願いします。
安江委員	○いわゆるグレーゾーンにある児童生徒が、成長していく過程や、卒業後に、病識・障がい識がないためにこんなはずじゃなかったと混乱や悩みを抱えることもあるため、学齢期から正しい知識を有した教職員

	による導きが必要であり、そのために教育相談センターの支援を要する。
林委員	○幼稚園については、特別支援学級というように別にクラスを設けることはしていないため、一般のクラスの中でクラス担任が教育に当たっている。大学の先生など講師に招いて研修を行うが、慢性的な人材不足ななか対応に苦慮していることはある。自園のみではなく、障がい児施設等と併用している例が多い。
古川委員	○専門的知識を有する人員を確保することは困難である状況がある。
古川委員	○障害を有する児童生徒や保護者に対する偏見や差別を払しょくできるような取り組みも必要ではないか。
早川委員	○児童生徒一人一人への教育プログラムの提供にあたり、児童生徒及び教職員へのサポートが必要である。
早川委員	○障害児、者への偏見や差別を撤廃しなくてはならない。
山田委員長	その他についてご意見をお願いします。
委員全員	特になし
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	それでは、「議題（４）ICT利活用における学校のあり方の目指す姿、期待すること、懸念すること、課題」に入ります。 先ほどと同じように、事前に配布してある資料の順番で、目指す姿、期待すること、懸念すること、課題、その他の順にお願いします。
学校教育課長	概要について、ご説明します。 （ICT利活用） 学校内、学校外のネットワーク、ICT利活用のあり方。情報モラル教育、デジタルシティズンシップ教育。市内・市外学校間交流におけるICT利活用。タブレット端末の家庭への持ち帰りと利用方法や安全性の確保。不登校対策、特別支援教育のICT利活用。プログラミング教育。授業におけるICT利活用。
山田委員長	目指す姿についてご意見をお願いします。
山田委員長	○そもそもの授業スタイルを変えないとICT機器の活用はすすまない。
山田委員長	○教職員がいくらスキルを上げて行っても、使用するのは子どもたちなので、子どもたちのスキルアップを考えなくてはならない。
山田委員長	○ICT支援員が大きな役割を果たす。一人でも二人でも増やしていった児童生徒のスキルアップのため活用してもらいたい。
山田委員長	○ICT機器を学校生活の中でも使っていく形に変革すれば、児童生徒の活用スキルが増大するきっかけになる。
山田委員長	○児童生徒の学習履歴を残していったら、自ら何が出来て、何が出来なかったのか振り返りができるようになると良い。また、その学習履歴（ログ）は、小学校から中学校へしっかりと継続していく必要がある。
山田委員長	○デジタルシティズンシップが必要である。情報モラルの時代の、これはダメ、あれはダメではなく、こうやって使える、こうも使えるという視点への移行が必要である。
小林副委員長	○学校の中での利活用は、段階を経て進んでいっていると聞いている。しかし、教育DXが進んでいない。教育DXは仕組みの話だと思うの

	で、先進事例を参考にしながら、どんどん取り入れて行ってほしい。
小林副委員長	○先進事例をとりあえず取り入れてみて、その後使いながら、慣れていくのと同時にあま市の学校に合わせていくのもいいと思う。
安江委員	○どんどん良い使い方が新しく見いだされて行って、様々な学校の場面で使用して行ければ良いと思う。
林委員	○幼稚園においては、園側もさることながら、保護者側もICT機器は普及している状況があり、手書きの書類については、ほぼなしとすることができた。
林委員	○幼稚園への朝の欠席等の保護者から園への連絡も全てICT機器を用いて行う。
林委員	○幼稚園から保護者にプリントを配布することもほとんどなく、ICT機器を用いてお知らせを配布している。
山田委員長	期待することについてご意見をお願いします。
山田委員長	○毎日の体温測定結果の報告などの体調管理にICT機器を用いたり、連絡帳を辞めてタブレットに打ち込むようにして保護者との連絡としたり、子どもたちにICT機器を用いて日記を書かせるなど学校生活でのICT機器利用をすすめる必要がある。
山田委員長	○AIなどもどんどん活用して知識を蓄えて行くと良い。
山田委員長	○児童生徒が、自分で課題を見つけて、自分で調べていく形が取れると良い。
安江委員	○主体的で対話的で深い学びを実践するため、児童生徒間の授業中を含めたコミュニケーションを図るツールとして期待しているし、コロナ禍においては大きく活躍した。
安江委員	○授業中など注目される中一人ではなかなか意見を出しづらい児童生徒もいるなか、ICTを用いることにより、意見を出しやすくなる。
古川委員	○ICT機器を用いて、業務効率の向上や情報共有の改善が推進されているが、さらにそれを促進していく必要がある。
古川委員	○ICT機器を用いることで、距離や時間に制約されない教育活動が可能となると期待する。
溝口(保育士長)委員	○ICT機器をしっかり活用して効率化を図りたい。
山田委員長	懸念することについてご意見をお願いします。
古川委員	○ICT機器等の増大により、必要な予算がどんどん増大していく。
古川委員	○教職員のICT機器利活用能力もレベルアップして行かなくてはならない。
山田委員長	課題についてご意見をお願いします。
古川委員	○必要な情報をしっかり守るセキュリティを整えなくてはならない。
早川委員	○必要な情報をしっかり守るセキュリティを整えなくてはならない。
早川委員	○教職員、児童生徒のICT機器及び情報の取り扱いについてルール作りを更新することと、その内容の徹底を図る必要がある。
山田委員長	その他についてご意見をお願いします。
委員全員	特になし
山田委員長	ありがとうございました。

山田委員長	<p>それでは、「議題（５）教職員の働く場としての学校の目指す姿、期待すること、懸念すること、課題」に入ります。</p> <p>先ほどと同じように、事前に配布してある資料の順番で、目指す姿、期待すること、懸念すること、課題、その他の順にお願いします。</p> <p>まず、①「教職員の働き方改革」についてお願いします。</p>
学校教育課長	<p>概要について、ご説明します。</p> <p>（教職員の働き方改革）</p> <p>教職員の勤務時間。労働者としての教職員の職場環境。障害者雇用率。メンタルヘルス。教材、ノウハウ等の継承・蓄積。自校作成の教材等の再利用。チームとしての学校。</p>
山田委員長	目指す姿についてご意見をお願いします。
山田委員長	○そもそもの視点として、働き方改革を何のためにやっているかという と、教職員が早く帰るためにやっているわけではなく、子どもたちと向き合う時間を確保するために行っていることを改めて確認する必要がある。
山田委員長	○もっとも重要なのは、教職員の意識である。ICT機器を活用しきれず、未だ非効率的な紙による事務を行っている方もいると聞く。現場において教職員を先導する役割を担う方が必要であろう。また、研修の場を毎年もうける必要がある。
山田委員長	○教職員の一日のタイムマネジメントの意識が必要。
教育長	○教職員の働き方改革については、あま市は様々な取り組みをしている。先生方の勤務時間の意識化と見える化を図っているところです。改善については道半ばといえますが、当初よりは長時間勤務はかなり減ってきたと言える。
教育長	○教職員が必ずやらなければならない業務以外は、できるだけ教職員以外の手によって実施していく方向としたい。
小林副委員長	○地域毎の取組や地域ごとの課題もあると思われる。何が問題で、何を改善していくのかについて、現場の声をしっかりと拾い上げていく必要があると思われる。
小林副委員長	○可視化する取組は必要である。
小林副委員長	○可視化した問題や、取組は市民にも広報し、理解と協力を得られるとよい。
小林副委員長	○ICT支援員に授業の中での使い方だけではなく、教育DXに代表される働き方をデザインするようなICT機器の利活用方法のアドバイスが得られると良い。
溝口委員	○教職員の本務以外の仕事が多すぎるのではないかと
溝口委員	○事務的な仕事のうち、教職員の本務以外の仕事が多いのではないかと
溝口委員	○そもそもの教員数が少ないのではないかと考える。
安江委員	○コロナ禍を経て、学校行事や業務も必要か否かの検討を経て、削減されている。
林委員	○幼稚園においては、保護者等との連携をするためのアプリの導入がとても大きな役割を果たして、事務量が劇的に軽減した。
林委員	○幼稚園については、小中学校よりも保護者が在園中の様子を知りたいという要求が大きいと、教職員のタブレット端末やカメラ機能を活

	用して、保護者への情報提供の手段としている。
早川委員	○ICT機器等の積極的導入と利活用。
山田委員長	期待することについてご意見をお願いします。
小林副委員長	○教育DXにより新しいツールで効率化していく取り組みをすすめた い。
溝口委員	○教育DXなどの活用により、教職員の本務以外の、特に事務的な仕事 が軽減されることを期待したい。
溝口(保育士長) 委員	○教育DXなどの活用により、教職員の本務以外の、特に事務的な仕事 が軽減されることを期待したい。
安江委員	○事務仕事についても、必要か否かの検討をして精選して行ってほしい。
林委員	○幼稚園業界においては、産休育休の取得が進んでいなかった現状があ るが、慢性的な人手不足のなかで、働きやすい環境を整えるためにも、 進めて行っている。
古川委員	○テレワークやフレックス勤務の促進。
古川委員	○職場環境の改善は、職員のモチベーション上昇に寄与する。
早川委員	○職場環境の改善は、職員のモチベーション上昇に寄与する。
山田委員長	懸念することについてご意見をお願いします。
委員全員	特になし。
山田委員長	課題についてご意見をお願いします。
古川委員	○教職員の職場環境改善のためにも、老朽化した学校施設の改善を進め たい。
山田委員長	その他についてご意見をお願いします。
恒川委員	○保育園の業界も人手不足は深刻で、職場環境の改善は課題である。
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	続きまして、②「部活動のアウトソーシング」についてお願いします。
学校教育課長	概要について、ご説明します。 (部活動のアウトソーシング) 小学校又は中学校の部活動の指導を外部スポーツ団体等にアウトソーシ ングし、教職員による指導を廃止することについて。
山田委員長	目指す姿についてご意見をお願いします。
山田委員長	○中小学校体育連盟のありかたを考える必要がある。
山田委員長	○受け皿となる地域のクラブチームを育成していく必要がある。
山田委員長	○児童生徒がやりたい事をやれるように文化系を含め選択肢を示せるよ うにしてあげたい。
教育長	○国の勢いはトーンダウンしてきていて、今すぐ実施するというもので はなくなった。令和5年度から教職員の課題検討委員会を開催し、現 場の意見を聴取することとした。
教育長	○現在は、学習指導要領のなかに中学校の部活動は位置付けられている。
教育長	○国内スポーツにおける小中学校部活動の果たしている役割と文化とい う側面も考慮の一つとする必要があると思われる。
小林副委員長	○外に出すということがこれから検討されるということだが、既存の部 活動の枠組みにとらわれずに、もっと市民と連携することを考えては。 例えば、あま市で行われている歴史ガイドボランティアのように現在

	の部活動にはないもので、外部の識者等の協力を得て新しい部活の可能性が広げられることもあるのではないかと思います。
小林副委員長	○ボランティア部とは違う枠組みで、地域のボランティア活動をされている人材と連携することで、部活動が新しい学びの場として広がるのではないかと。また、特色ある学校づくりにもつながるのではないかと。
古川委員	○学校運営協議会を積極的に活用してほしい。
溝口(保育士長)委員	○他市で部活動OB、OGが指導者補助として既に地域住民として支援している取組もある。
山田委員長	期待することについてご意見をお願いします。
安江委員	○正規の勤務終了時間に近づけていけるようにしたい。
安江委員	○教員の本分は、教科指導にあると考える。
古川委員	○地域住民や団体に積極的に関与していただき、地域との交流を促進される。
恒川委員	○そもそもの先生の負担が軽減されるということは良いことであると考えます。
山田委員長	懸念することについてご意見をお願いします。
溝口委員	○部活動を通して子どもが成長するという側面もあると思う。もちろん部活動のみではないが、部活動の果たす役割もあると思う。
溝口委員	○教科、専門以外の部分による児童生徒と教職員の交流を通して、児童生徒も教職員も成長していく場である役割も担ってきているのではないかと感じている。
古川委員	○公的予算をかけて実施するのか、個人から費用を徴収するのか、運営経費のありかたを考慮する必要がある。
早川委員	○公的予算をかけて実施するのか、個人から費用を徴収するのか、運営経費のありかたを考慮する必要がある。
早川委員	○これまで、青少年の健全育成の場でもあった部活動が、単なる趣味やスポーツのみの場となるのであれば、その分になってきた役割の場がなくなる。
恒川委員	○中学校の時の部活動の仲間は、公立学校であると地縁による先輩後輩でもあり、その後長く続く人間関係に発展しうる。
恒川委員	○部活動部分で私立学校と公立学校の格差が大きくなる。
山田委員長	課題についてご意見をお願いします。
早川委員	○新たな部活動の場における指導者と児童生徒のコミュニケーションを円滑かつ必要分とることができるような仕組みがあると良い。
恒川委員	○自信が他市でスポーツクラブの指導者をしているが、部活動の受け皿としてあり方が変わってくることもあり、学校だけでなくスポーツクラブ側のやり方が大きく変わる。
恒川委員	○公費負担でなく、私費負担となった場合の低所得世帯への配慮。
山田委員長	その他についてご意見をお願いします。
委員全員	特になし
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	追加でご意見を発表されたい方、ご質問がある方はいらっしゃいますか。

委員全員	特になし。
山田委員	以上で、本日の議題を全て終了しました。 事務局に進行をお返しします。
学校教育課長	委員の皆さま、ご意見をありがとうございました。 続いてその他1点目として次回以降の日程及び内容について、ご説明いたします。
書記	ご説明します。 できるだけ多くの方にご参加いただける日程を調整させていただきたいと思います。次回 第5回あま市小中学校あり方検討委員会について、6月又は7月にも開催できたらと考えます。 お手元の6月及び7月の日程調整用紙について後日ご提出いただき、調整をさせていただきます。また、ワードで作成しました調整用紙を、メールでお送りさせていただきますので、そちらでご提出いただいてもかまいません。 第5回委員会では、第4回委員会までにいただいたご意見をまとめた報告書案についてご提示し、加除修正等のご意見を頂く予定をしております。 第6回委員会で、最終的な報告書の完成を目指します。
学校教育課長	続きまして、その他2点目として、追加質問・ご意見について、ご説明いたします。 これまでの委員会においてお渡しした資料及びそれぞれのテーマについて、質問又は追加で提出を求める資料等のある場合は、メール、FAX、電話等で事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。作成できる資料については作成して次回委員会にてご提示できればと思います。
学校教育課長	委員の皆さま、他にございますか。
委員全員	特になし。
学校教育課長	本日はお疲れさまでした。 本日の会議の大要をまとめた議事録を作成し皆様にお送りします。議事録をご確認いただき、修正の必要がある場合は、その旨学校教育課までお知らせください。 修正等の済みしだい議事録をあま市ホームページで公開します。 次回、またよろしく申し上げます。 【閉会時刻 午後12時00分】